

令和8年度白馬村農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当村は、長野県の北西部にあり、北アルプスを背に標高700mの高地に位置する積雪寒冷地です。

このような地域特性のもと、本村では零細な水稻依存の農業が行われてきました。

現在も地域農業は水稻中心に行われていますが、担い手農家への農地利用集積が進んでおり、農業法人等による、主食用米、転作作物としては、そば、大豆、小麦が中心に栽培されています。また、県営ほ場整備事業の実施により、畑地化、ブロックローテーションによる新たな高収益作物等の取組みが進められています。

一方で、山間集落を中心に、農業従事者の高齢化や農家戸数の減少が顕著であり、中山間地域等直接支払、多面的機能支払制度等により農地の維持を図っていますが、将来に向けた農地等の維持管理が課題となっています。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域夏場の冷涼な気候を利用した作物生産に取組み、アスパラガス、トマト（中玉トマト、ミニトマト含む）白ねぎ、スイートコーン、ジャガイモ、サツマイモ、苺、ジュース用トマト、玉ねぎ、落花生、キャベツ、ブロッコリー、白菜、人参、食用ほおずき、ケール、セルリー、ニンニク、枝豆、南瓜、ウド、ブルーベリー、スモモ、プルーン、ブドウ、モモ、リンゴ、ヘーゼルナッツ、ヒペリカム、リンドウ、ヒマワリ、アスター等の導入推進により収益性の向上に取組むと共に、地力増進作物の作付けによる土づくりを合わせて進める。

また、ほ場整備完了田における高収益作物の作付けは、地域計画に位置付けられた担い手農家への農地の集約化による団地化を図ると共に、スマート農業の取組み及び機械化による低コスト生産技術等の導入を進め所得向上を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

ほ場整備田は水田として農業法人等、地域計画に位置付けられた担い手農家に農地の利用集積、集約化を図り、機械化された作付を水稻を中心に進める。また地力増進作物の作付による土づくりを進め、ブロックローテーションによる高収益作物等の導入を図る。

大規模法人による転換作物のそば・大豆・小麦作付けほ場で、集約化が図れるほ場においては畑地化を行い、国内産需要の生産安定と品質向上を図る。

ブロックローテーションによる作付け体系ができるほ場においては、土づくりによる地力増進・適期防除により、麦・大豆・そば・高収益作物の生産安定を進める。

水田の利用状況等の点検は、農業者の営農計画書を基に現地確認等で精査し、畑作物のみを生産し続けている水田や、今後も水稻作付に活用される見込みのない水田においては、耕作者、地主との今後の利用検討により令和8年～9年度において支援を活用した畑地化や、大規模農家におけるブロックローテーションによる作付体系により水稻以外の作付を進めて行く。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

認定農業者等の地域計画による、中心となる経営体への農地の利用集積・集約化を推進し、効率的な作業体系の確立及びリゾケアコーティング粃直播、高密度播種苗、ラジコン草刈り機等の技術導入により、コスト削減を図り生産性の向上を進める。

主食用米の需要に見合った適正生産を進め、消費者ニーズにあった主食用米の作付を推進する。

また、当村の知名度を生かし、地球温暖化防止に向けた秋耕等により環境に配慮した白馬産米のブランド化に取り組む。

大規模なほ場整備が進められている地域においては、農業の近代化を図りながら農地の集約化による低コスト生産を進めると共に、スマート農業技術等の活用により、農作業の効率化、省力化を目指す。

(2) 備蓄米

なし

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

なし

イ 米粉用米

なし

ウ 新市場開拓用米

酒造好適米の安定供給を図るため、生産性・品質の向上や収量の安定化、産地と実需の結び付きの強化に取り組めます。

エ WCS用稲

なし

オ 加工用米

なし

(4) 麦、大豆、飼料作物

大規模農業法人等の、地域計画に位置付けられた農業を担う者への農地の利用集積を推進し、効率的な作業体系の確立により生産性の向上を図る。

また、本村に適した品種や生産性向上のための技術を検討すると共に、適期播種・適期収穫による品質・収量向上に取り組む。

(5) そば、なたね

大規模農業法人等の、地域計画に位置付けられた農業を担う者への農地の有効活用を推進し、効率的な作業体系の確立により生産性の向上を図る。

また、担い手農家への農地集積により、遊休荒廃地化防止に努める。

「そばの里白馬」をキャッチフレーズに地域特産物として地産地消等消費拡大を進める。

(6) 地力増進作物

ほ場整備田への高収益作物の導入に当たり、緑肥作物のソルガム、エンバク、ライムギ等のすき込みにより、土壌の物理性・排水性の改善、有機物の供給・地力増進・養分補給等土づくりを行い、白ねぎ、ジュース用トマト、玉ねぎ、ジャガイモ、キャベツ、白菜、サツマイモ、スイートコーン等の作付拡大を進める。

(7) 高収益作物

「地産地消」を推進し、村内で生産された安全・安心で新鮮な農産物を提供するため、農産物直売所等との連携強化を図ると共に、学校給食、村内飲食施設等での消費拡大に取り組む。

アスパラガス、トマト（中玉トマト、ミニトマト）含む、白ねぎ、スイートコーン、ジャガイモ、サツマイモ、苺、ジュース用トマト、玉ねぎ、落花生、キャベツ、ブロッコリー、人参、食用ほおずき、ケール、セルリー、ニンニク、枝豆、南瓜、ウドについては、園芸重点作物として進め、ブルーベリー、スモモ、プルーン、ブドウ、モモ、リンゴ、ヘーゼルナッツ、ヒペリカム、リンドウ、ヒマワリ（切り花）、アスター（切り花）等については園芸振興作物として振興して行く。

令和2年度から整備を進めているほ場整備事業に伴う高収益作物の導入を地域計画に位置付けられた農業を担う者への集約化に取り組み、令和8年度5haの作付を目標に農地の畑地化を進める。

水稻を作付したほ場では、地力が不足するため地力増進作物を作付し、春、夏、秋のいずれかのすき込みにより土づくりを進め、白ねぎ、ジュース用トマト、玉ねぎ、ジャガイモ、キャベツ、ブロッコリー、白菜、サツマイモ、スイートコーン等の高収益作物を、ブロックローテーション体系の構築により作付拡大を進める

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	414		401		401	
備蓄米						
飼料用米						
米粉用米						
新市場開拓用米			17		17	
WCS用稲						
加工用米						
麦	2.2		1		1	
大豆	30		31		31	
飼料作物						
・子実用とうもろこし						
そば	110		110		110	
なたね						
地力増進作物	2		2		2	
高収益作物	17		17.1		17.1	
・野菜	15		15		15	
・花き・花木	0.3		0.3		0.3	
・果樹	1.7		1.8		1.8	
・その他の高収益作物						
その他						
畑地化	60.22		60.22		60.22	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	そば（基幹）	そば・産地推進品目生産性の向上への支援	農地集積維持（拡大）（ha）	（7年度）51.2ha	（8年度）60ha
2	麦・大豆	麦・大豆・産地推進品目生産性の向上への支援	農地集積拡大（ha）	（7年度）30.7ha	（8年度）40ha
3	アスパラガス、トマト（中玉トマト、ミニトマト含む）、白ねぎ、スイートコーン、ジャガイモ、サツマイモ、苺、ジュース用トマト、玉ねぎ、落花生、キャベツ、ブロッコリー、白菜、人参、食用ほおずき、ケール、セルリー、ニンニク、枝豆、南瓜、ウド	アスパラガス等・地域重点作物支援	アスパラガス等・地域重点作物作付面積拡大（ha）	（7年度）2.12ha	（8年度）16ha
4	ブルーベリー、スモモ、プルーン、ブドウ、モモ、リンゴ、ヘーゼルナッツ、リンドウ、ヒペリカム、ヒマワリ（切り花）、アスター（切り花）	ブルーベリー等・地域振興作物支援	ブルーベリー等・地域振興作物作付面積拡大（ha）	（7年度）0.73ha	（8年度）2.1ha
5	そば	そば（地域の取組に応じた配分）	農地集積面積拡大（ha）	（7年度）51.2ha	（8年度）60ha
6	地力増進作物（ソルガム、エンバク、ライムギ）	ソルガム等・地力増進作物の作付け（地域の取組に応じた配分）	地力増進作物作付面積拡大（ha）	（7年度）0ha	（8年度）3.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:長野県

協議会名:白馬村農業再生協議会

整理 番号	使途 ※1	作 期 等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	そば・産地推進品目生産性の向上への支援	1	10,000	そば(基幹)	農地の利用集積に取組み、以下の取組1つ以上を選択して実施すること ① 施肥・耕耘同時播種作業技術。 ② 主要3作業(耕耘・播種・収穫)のすべての作業を実施している。 ③ 適期は種作業の実施。
2	麦・大豆・産地推進品目生産性の向上への支援	1	10,000	麦・大豆	農地の利用集積又は、団地化に取組み、以下の取組1つ以上を選択して実施すること ① 施肥・耕耘同時播種作業技術。 ② 主要3作業(耕耘・播種・収穫)のすべての作業を実施していること。 ③ 難防除雑草の防除の実施。
3	アスパラガス等・地域重点作物支援	1	40,000	アスパラガス、トマト(中玉トマト、ミニトマト含む)、白ねぎ、スイートコーン、ジャガイモ、サツマイモ、苺、ジュース用トマト、玉ねぎ、落花生、キャベツ、ブロッコリー、白菜、人参、食用ほうずき、ケール、セルリー、ニンニク、枝豆、南瓜、ウド	地域重点作物を販売目的で作付け
4	ブルーベリー等・地域振興支援	1	38,000	ブルーベリー、スモモ、ブルーン、ブドウ、モモ、リンゴ、ヘーゼルナッツ、リンドウ、ヒペリカム、ヒマワリ(切り花)、アスター(切り花)	地域重点作物を販売目的で作付け
5	そば(地域の取組に応じた配分)	1	20,000	そば	農地の利用集積に取組みそばを作付けし、以下の取組1つ以上を選択して実施すること ① 施肥・耕耘同時播種作業技術。 ② 主要3作業(耕耘・播種・収穫)のすべての作業を実施している。 ③ 適期は種の実施
6	ソルガム等・地力増進作物の作付け(地域の取組に応じた配分)	1	20,000	地力増進作物(ソルガム、エンバク、ライムギ)	地力増進作物ソルガム、エンバク、ライムギの何れかを作付けし、春、夏、秋の何れかにすき込み、ほ場条件の改善に取組み、白ネギ、ジュース用トマト、タマネギ、ジャガイモ、キャベツ、ハクサイ、スイートコーン、を作付した水田。

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。